

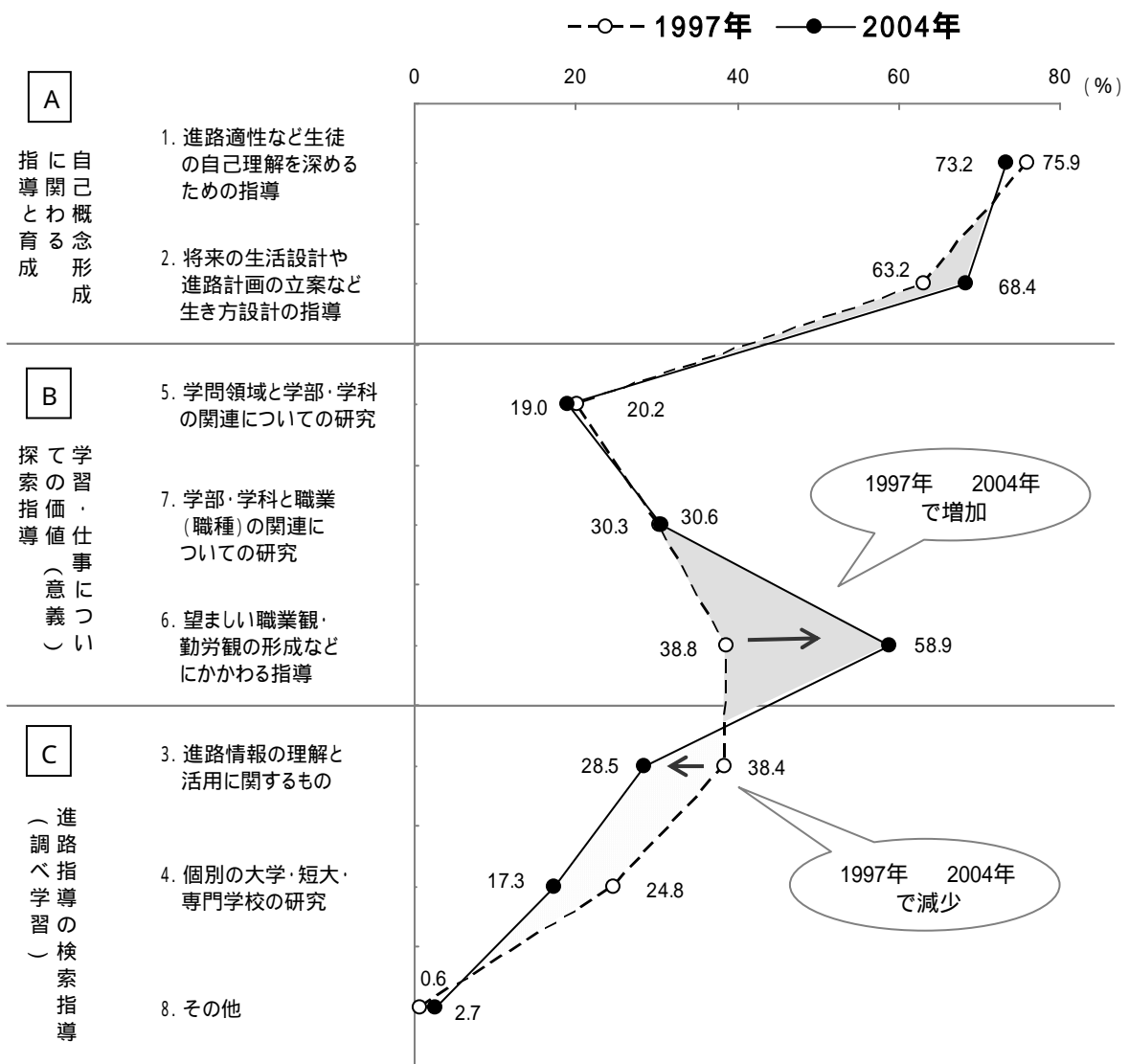
1 今後さらに重要性が増す進路指導の内容とは

(1) 1997年との比較 - 「進路情報の提供」から「価値観の形成」へ

各校における進路指導で、今後より一層、重要性が増すと思われる内容について3つを選択していただいた。その選択率について、1997年と比較したのがデータ1である。

最も重要性が増すと思われるものは「1. 進路適性など生徒の自己理解を深めるための指導 (73.2%)」、次いで「2. 将来の生活設計や進路計画の立案など生き方設計の指導 (68.4%)」であり、この傾向は97年調査と同様である。

データ1 今後さらに重要性が増す進路指導の内容 (1997年 / 2004年)



数値：今後さらに重要性が増すと思う (%) (重要性が増す度合いの高い選択肢3つを選択)

一方、「6. 望ましい職業観・勤労観の形成などにかかわる指導」と「3. 進路情報の理解と活用に関するもの」については、97年調査からの変動が目立つ。97年調査において、両者の選択率はほぼ同程度であったが、今回の結果では前者の重要性が大幅に伸び(97年38.8% 04年58.9%)、後者の選択率は明らかに低下した(同38.4% 28.5%)。同様に「4. 個別の大学・短大・専門学校の研究」も選択率が低下している(同24.8% 17.3%)。「3. 進路情報の理解と活用」「4. 個別上級学校の研究」の重要性が低下した背景としては現行の教育課程において「総合的な学習の時間」や「情報」が新設されたこと、インターネット等の普及により「調べ学習」的な進路情報の活用に一定の成果が得られつつあること、などが考えられる。

一方で、「6. 職業観・勤労観の形成」の重要性が高まっている背景として、大きく2つの要因を指摘することができる。1つは、新規学卒者の雇用環境(上級学校卒業時も含め)が非常に厳しいことである。高卒者への正規雇用の求人(特に生徒が希望する職種)が減少してフリーターが増加していること、またフリーター希望の生徒の出現やそれを許容する家庭の存在への戸惑いの声などもフリーアンサー(自由記述欄)に複数寄せられた。就職希望者に対する企業からの要求水準の高まりへの対応に苦心しているという声は専門学科から寄せられた。

さらにもう1つの背景として、生徒達が進路選択の上で必要な価値基準をなかなか持ちにくくなっている状況を指摘できる。

(2) 生徒の状況 - 情報入手は容易になったが自分に必要なものが選べない

データ2は今回の調査結果とは別に、ベネッセ教育総研が高校2年生対象に行った調査から、将来展望に関する自己概念の肯定率を1997年と2004年(一部、2003年)とで比較したものである。読み取れる主な傾向を次に挙げる。

イメージからの選択の3つの項目(「1. 将来に希望をもっている」「2. つきたい職業がある」「3. 努力してやり遂げるような仕事がしたい」)については97年に比べ04年で高校生の肯定率が2~5ポイント程度伸びている。深い自己理解や現実社会との重ね合わせをさほど必要としないファジーなレベルでの「なりたい自分」については約6割の生徒が描けているようである。

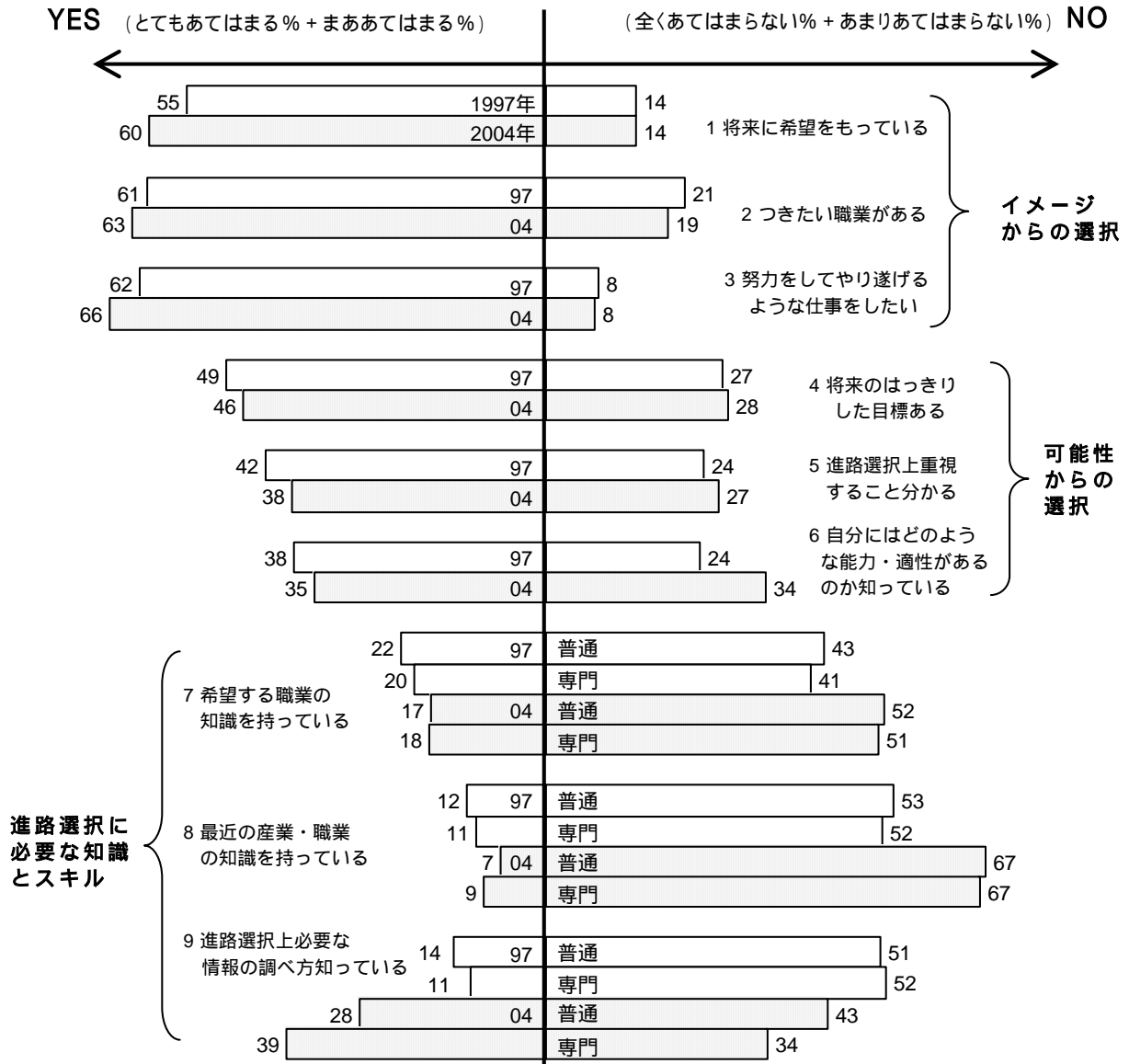
一方で、自己理解に基づいて「なれそうな自分」を描けているかを問う可能性からの選択では、3つの項目の全てで肯定率が下がって否定率が増えている。特に「6. 自分にはどのような能力・適性があるのか知っている(自己の成長可能性の理解)」は、否定する生徒が10ポイントも増加している。

進路選択に必要な知識とスキルでは、「9. 進路選択上必要な情報の調べ方」を「知っている」とする生徒の割合は大幅に増えている(普通科 97年14% 04年28%、専門学科 同 11% 39%)。しかし、それにもかかわらず「7. 自分の希望する職業の知識を持っている」「8. 最近の産業・職業に関する知識を持っている」とする生徒は若干減

少している。逆に「持っていない」とする生徒が 10 ポイント程度以上増加している（普通科 については比較データなし / 学校類型については p 2 参照）。

このことから、生徒たちは 97 年に比べ情報の「調べ方」は分かるようになっており、将来に対しても決して悲観的ではないにも関わらず、自己の適性・価値観や実社会で求められる能力要件についての理解が進まないために自分なりの進路選択の基準が見つかりにくい状況なのではないかと推測される。

データ 2 < 参考 > 高校生の将来展望に関する自己概念（高 2 生徒 1997 年 / 2004 年）



1997年：「高校生の自己理解と進路展望」1997年11～12月 高2 n=7,957 (普通 = 4,145, 普通 = 3,177, 専門 = 635)

2004年：以下の各調査を、1997年調査の類型別構成比 (普通 = 52.1%、普通 = 39.9%、専門 = 8.0%) に準じて合算集計した値。 // 普通 「学習活動の検証に関わる共同研究」2003年11月(高2) n=3,569 / 普通・専門 「高校生の進路意識と学習行動に関わる共同研究」2004年6～7月(高2) n: 普通 = 2,233、専門=1,062 / 学校類型については p 2 参照。

(3) 学校類型による違い

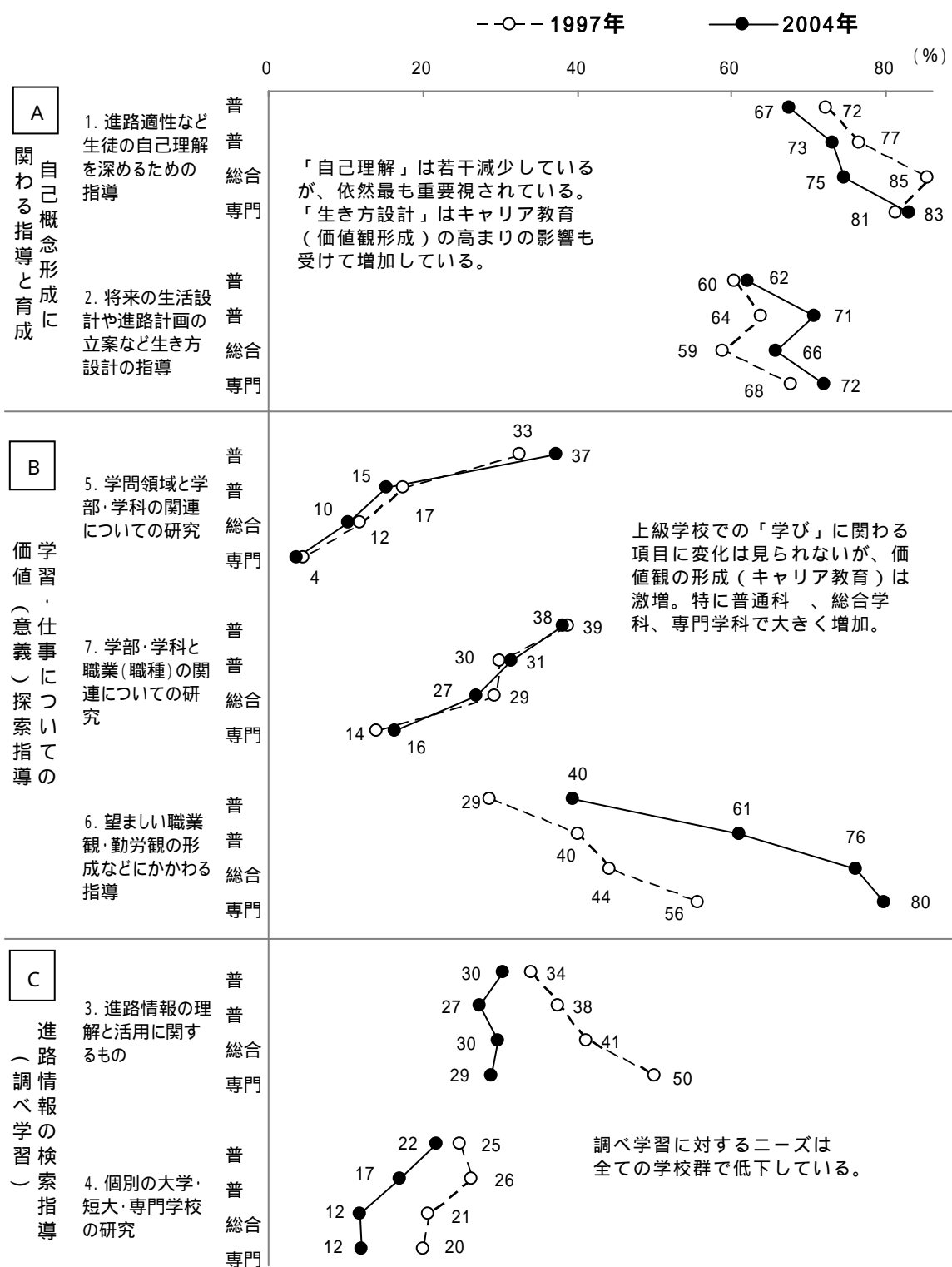
データ3は、学校類型別の選択率を97年と比較したものである。縦に4つの学校類型、横に選択率(%)を示している。グラフが横に大きく広がる項目は学校類型間で今後の重要性に対する認識が異なる項目であり、広がりの小さい項目は学校類型間で重要度の差が小さい項目といえる。

「1.進路適性・自己理解を深めるための指導」など、A自己概念形成に関わる指導と育成のカテゴリでは、いずれの学校類型においても重要性が高く、類型間での違いも比較的小さい。

一方で、B学習・仕事についての価値(意義)探索指導の重要性に対する認識は学校類型間での違いが大きい。4年制大学への進学者が卒業後の進路の大多数を占める普通科では「5.学問領域と学部・学科の関連」、「7.学部・学科と職業(職種)の関係」が高く、「6.職業観・勤労観の育成」とほぼ同じレベルである。進学校の生徒にとって“職業選択”は上級学校卒業後のことであるため、高校段階の進路学習としては「職業」についてよりも「学問」について研究することを優先している学校も少なくないと思われる。最近、体験学習に先進的に取り組まれている学校で「研究者や職業人に生徒向けにお話いただくときには生徒にとって『望ましい自分の将来像』への考えを深めるきっかけとなるように、各講師に『やりがい・よろこび』や『生きざま』『使命感』などについて必ず語っていただくようにしている」など、単に学問や職業の情報・知識を得るのみならず「生き方設計」や「勤労感・職業観の形成」との連動を意識したプログラムが増えてきているようである。

対照的に、卒業後の進路として就職や専門学校の高比重が高く、生徒が実社会に出るまでの平均期間が短い学校群では「6.職業観・勤労観の育成」の重要性がBのカテゴリ内で突出している。かつ97年調査からの数値の伸びもかなり大きい。特に総合学科と専門学科では、「1.進路適性・自己理解を深めるための指導」とほぼ同水準であり、今回の調査項目の中で最も重要視されている項目の1つと言える。

データ3 今後さらに重要性が増す進路指導の内容（学校類型別）



数値：今後さらに重要性が増すと思う（%）（重要性が増す度合いの高い選択肢3つを選択）

普 = 普通科、普 = 普通科、総合 = 総合学科、専門 = 専門学科 / それぞれの学校類型についてはp2参照

(4) その他(フリーアンサー)

「8. その他(全体で2.7%:データ1)」については、具体的な内容をフリーアンサーとしてご記入いただいた。その内容は半数近くが「学力・学習習慣」と「表現力・コミュニケーション能力」など進路実現に必要な「実力」をいかに身につけさせるかに関するものであった。

主な記入内容の一部を以下に紹介する。なお、内容を整理する目的でいくつかのカテゴリを設けているが、カテゴリごとの回答件数と学校類型別の内訳も併せて記載している。

注: 総記入者数は53名(普通 =10、普通 =28、総合=4、専門=10)。なお、1人の回答者が複数内容を記入している場合、複数のカテゴリの件数に反映しているため、回答件数の合計数は総記入者数を上回る。

【A】学力・学習習慣(記入件数20:普通 =5、普通 =12、総合=2、専門=1)

基礎学力の充実の重要性に関する指導/今勉強することの重要性/小中で学んできたことと、入試で要求されることの間ギャップが大きく、基本的な学習習慣の欠ける生徒を受験態勢にまでもっていくこと

【B】表現力・コミュニケーション能力(記入件数4:普通 =3、専門=1)

自分の考えをまとめ、意見を発表できるような小論文指導/基礎学力とコミュニケーション能力向上に向けた指導/自己表現力の育成

【C】学問に触れる(記入件数3:普通 =3)

学問のおもしろさを感じられる授業の充実/企業・大学・研究所等の相互教育研究も大切

【D】インターンシップ等実社会に触れる(記入件数2:専門=2)

インターンシップ等の体験学習によるキャリア教育の推進

【E】働く意味/上級学校で学ぶ意味(記入件数3:普通 =1、総合=1、専門=1)

働く意味を低学年から教育していく/「勤労は義務であり、権利である」という当たり前のことを定着させていく指導

【F】進学費用に関わる記述(記入件数4:普通 =3、総合=1)

進学にかかる費用とその捻出のための計画も実は大切か/経済的な援助がなく進学の希望が叶えられないなどの理由で、不本意な進路選択を余儀なくされた生徒のその後の指導

【G】その他(記入件数17:普通 =2、普通 =5、総合=5、専門=5)

保護者の意識改革/小さい頃から家庭で将来の夢を話し合うことなしに、高校に入ってからでは困難/スクールアイデンティティの確立(教員、保護者、生徒の「共通認識」の形成)/生徒が受動的ではなく、能動的、自発的に取り組める進路指導の工夫/新しい学力観を身につけさせるための指導法、内容。まずは社会で生きるための自信となる基礎を身につけさせることが重要と考えている

* 掲載にあたり原文の趣旨はできるだけ尊重するよう配慮しましたが、スペースの都合で部分的に省略をさせていただきます。ご回答者の意図を十分に反映できていない場合には深くお詫び申し上げます。